

佳作

## 感動の継承

宮城県 宮城県仙台二華中学校一年 藤原 莉央

私は数学が好きだ。そして、今日は中間考査の問題解説の日。私は教室で一人心を弾ませていた。なぜなら、考査では解けなかった最後の難しい問題に面白い予感がしていたからだ。そしてついに、最後の問題の解説が始まった。先生にヒントをもらい、文字しかない複雑な式がノートの上でみるみるうちにシンプルに整理されていく。やがて、一つの値にたどりつく。とても気持ちよく、その過程に美しさも感じ、心が動かされたような気がした。

ふと、どのようにしてその問題が私たちの元に届いたのか疑問に思った。先生が作成した問題がその先生を通して私たちに伝わった。はたして、その前はどうかだろう。先生にも教えてくれた先生がいて、その先生にも先生がいる。そのようにしてさかのぼっていくと、最初に発見した大昔の人にたどりつく。昔から現在まで多くの人が積み上げてきた結果、現

在の形になり、私たちの元に届いて感動を与えたのだ。昔の人々も私と同じように積み上げられてきたものを受け取って感動したはずだ。昔から現在へ感動が受け継がれていると考えると、何か心に響くものがあつた。

ところで、なぜ人は感動を受け継ぐのだろうか。理由を二つ考えた。一つ目は、他人に感動を共感してもらえると満ち足りた気持ちになるからだ。私はよく、数学の授業で扱って面白かったり感動したりした問題を両親に説明している。共感してもらえると、仲間が見つかったような気がして嬉しくなる。二つ目は、人は他人の幸せや感動を嬉しく感じたり願ったりすることができからだ。小学生の頃、クラスメイトに算数を教えていた時、その子が自分でもできるのだと自信を持って笑顔になる様子を見て、もっと教えてあげたいと思った。「他愛」という言葉もあるように、人は自分の利益よりも人の幸福を願う生き物なのかもしれない。

私は感動に出会い、伝えることができるような感動を受け継ぐ人になりたい。

感動とは、物を深く感じて、心を動かすことらしい。私は感動に出会うためには、様々な分野を学ぶことや体験をすることが大切だと考えた。視野を広げ、

物事を多方面から見られるようになり、新たな発見が生まれるからだ。それが物を深く感じることへの第一歩となる。そして、相手に感動を伝える方法を考えてみた。数学の問題では、先生にヒントを出してもらい、最後は自分で解くことができた。つまり、自分でたどりつけた時に感動するのだろう。そのため、感動を伝えたい時、全てを伝えるのではなく、相手が自分でたどりつけるように導くようにしたい。

私はこれから、人と感動を共有し、喜びを分かち合うことで、感動を受け継ぎ、自分自身も成長していききたい。